

6. カーボンニュートラルについて

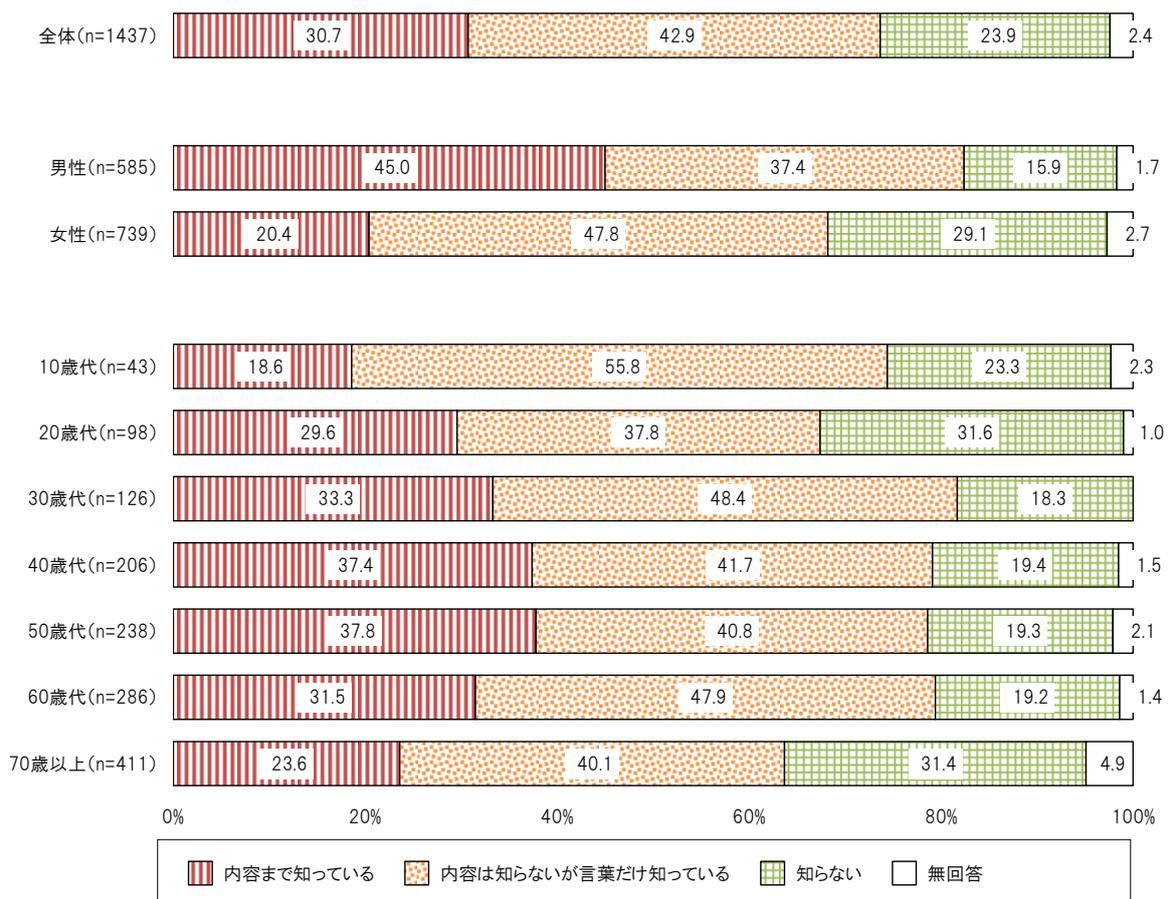
問 21 「カーボンニュートラル」を知っていますか。（○は1つだけ）

全体では「内容は知らないが言葉だけ知っている」が42.9%で最も高く、ついで「内容まで知っている」が30.7%、「知らない」が23.9%となっている。

性別にみると、「内容まで知っている」の割合は、男性が45.0%、女性が20.4%で男性の方が女性より24.6%ポイントと大幅に高くなっている。

年代別にみると、「内容まで知っている」の割合について、50歳代で37.8%と最も高くなっており、ついで40歳代で37.4%となっている。一方で10歳代は18.6%で最も低くなっている。

問21 カーボンニュートラルを知っているか



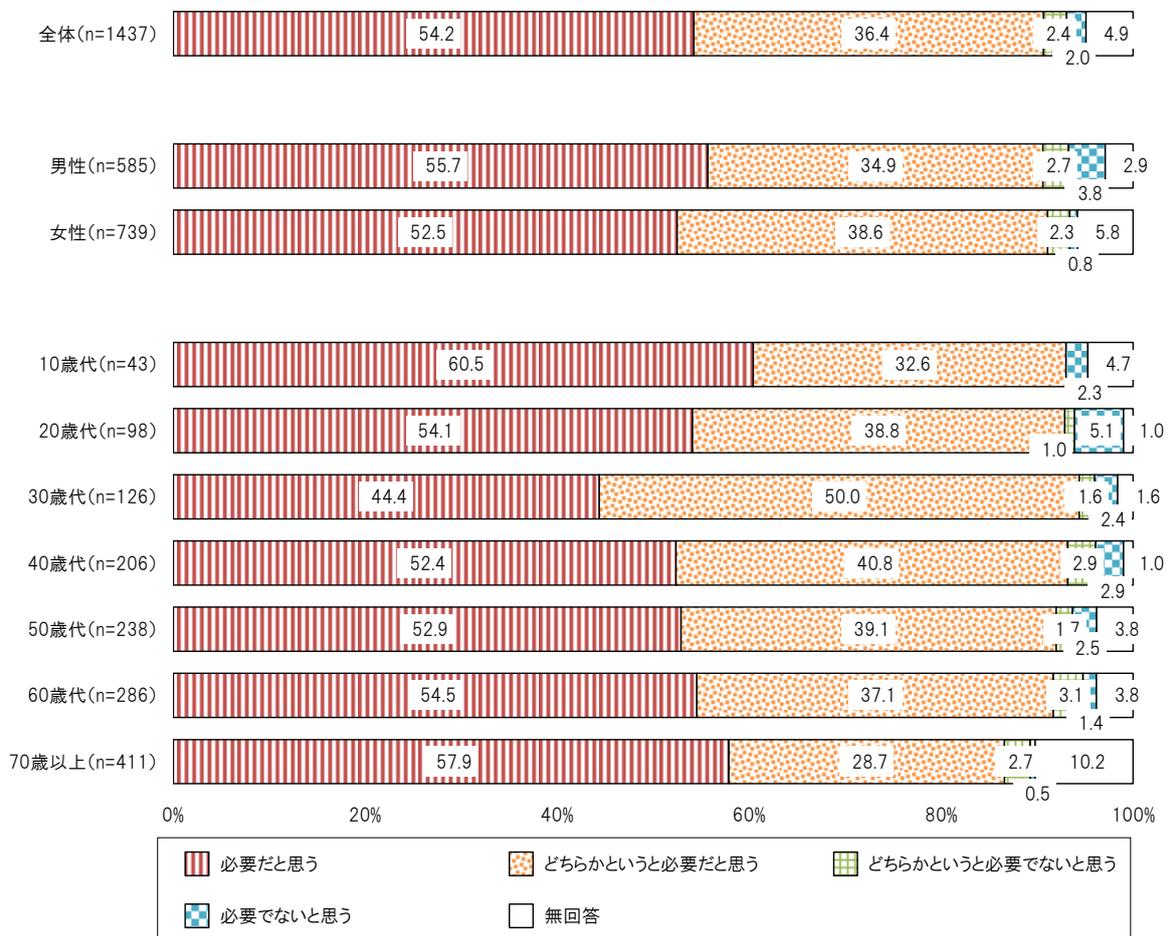
問 22 バイオマス発電など再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出しない低炭素の重要なエネルギー源です。再生可能エネルギーの活用についてどのように思われますか。（〇は1つだけ）

全体では「必要だと思う」が54.2%で最も高く、ついで「どちらかという必要だと思う」が36.4%、「どちらかという必要でないと思う」が2.4%となっている。

性別にみると、「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」の合計の割合は、男性が90.6%、女性が91.1%で女性の方が男性より0.5%ポイント高くなっている。

年代別にみると、「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」の合計の割合は、30歳代で94.4%と最も高くなっており、ついで40歳代で93.2%となっている。一方で70歳以上は86.6%で最も低くなっている。

問22 再生可能エネルギーの活用をどう思うか



問 23 2050 年までにカーボンニュートラルを実現するため、「地域脱炭素ロードマップ」が公表されています。松阪市が取り組むべきものとして重要だと思うものを以下から選んでください。（○は 3 つまで）

全体では「公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入」が 52.0%で最も高く、ついで「食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化」が 45.3%、「森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによるCO₂吸収量の確保」が 41.3%となっている。

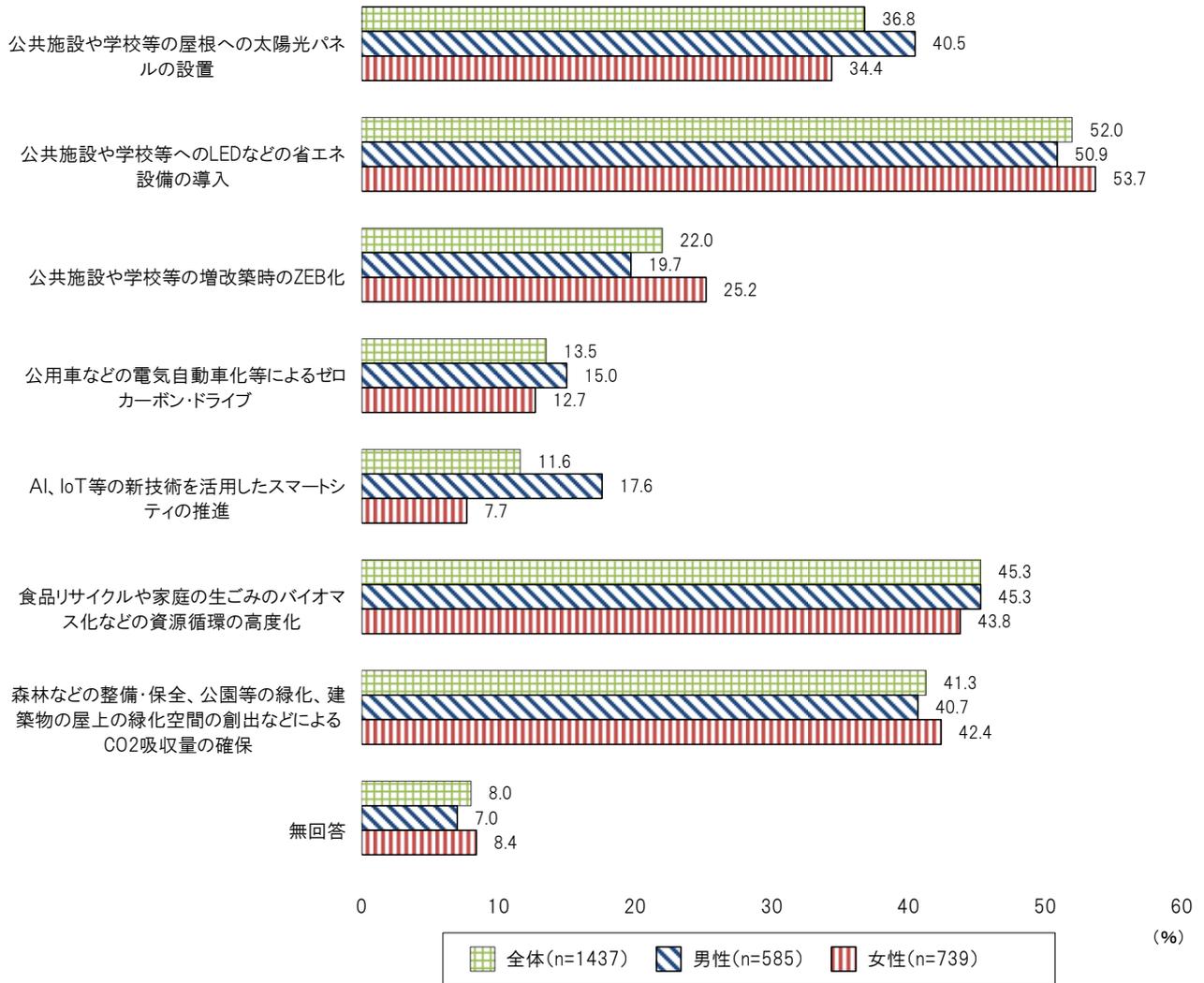
性別にみると、3 番目以内に入る項目は、項目、順番ともに男女で同じであった。男女の間で差が大きかった項目は、「AI、IoT等の新技術を活用したスマートシティの推進」で 9.9 ポイント、「公共施設や学校等の屋根への太陽光パネルの設置」で 6.1 ポイント男性の方が高く、一方で、「公共施設や学校等の増改築時の ZEB 化」で 5.5 ポイント、「公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入」で 2.8 ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「公共施設や学校等の屋根への太陽光パネルの設置」は 1 番目であった。また「森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによるCO₂吸収量の確保」はいずれの年代でも 3 番目以内に入っている。「食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化」については 10 歳代を除く年代で 3 番目以内に入っている。

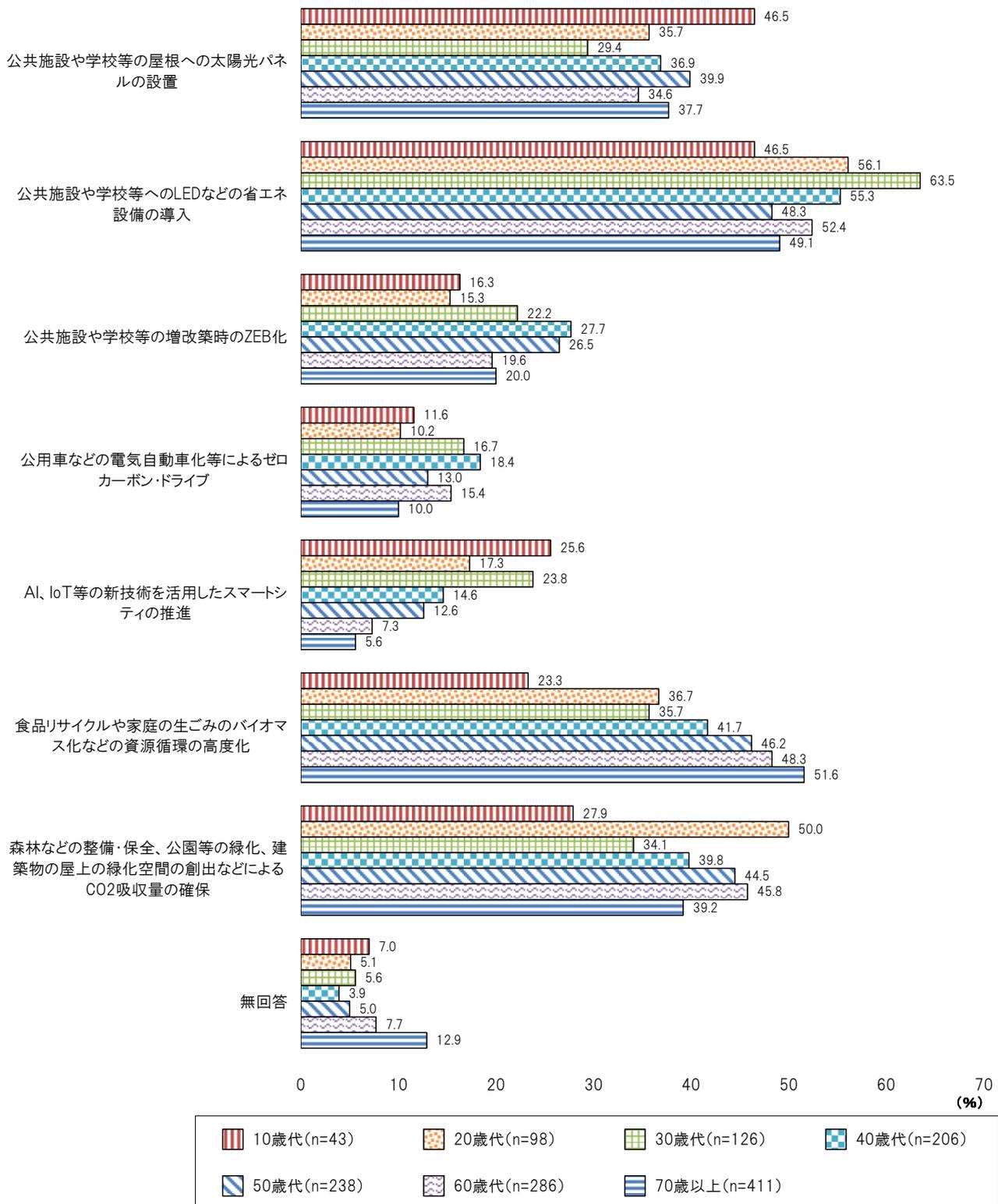
<年代ごとの上位3項目>

	1 番目		2 番目		3 番目	
10 歳代	公共施設や学校等の屋根への太陽光パネルの設置	46.5%			森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	27.9%
	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	46.5%				
20 歳代	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	56.1%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	50.0%	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	36.7%
30 歳代	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	63.5%	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	35.7%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	34.1%
40 歳代	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	55.3%	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	41.7%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	39.8%
50 歳代	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	48.3%	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	46.2%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	44.5%
60 歳代	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	52.4%	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	48.3%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	45.8%
70 歳以上	食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化などの資源循環の高度化	51.6%	公共施設や学校等への LED などの省エネ設備の導入	49.1%	森林などの整備・保全、公園等の緑化、建築物の屋上の緑化空間の創出などによる CO2 吸収量の確保	39.2%

問23 カーボンニュートラルを実現するために重要だと思うこと



問23 カーボンニュートラルを実現するために重要だと思うこと



問 24 カーボンニュートラルを実現するために、わたしたちができるところから取り組むべき「ゼロカーボンアクション 30」が公表されています。あなたがすでに取り組んでいることはありますか。（〇はいくつでも）

全体では「食品ロスをなくす」が 56.2%で最も高く、ついで「エネルギーの節約」が 53.9%、「3R の実践」が 49.5%となっている。

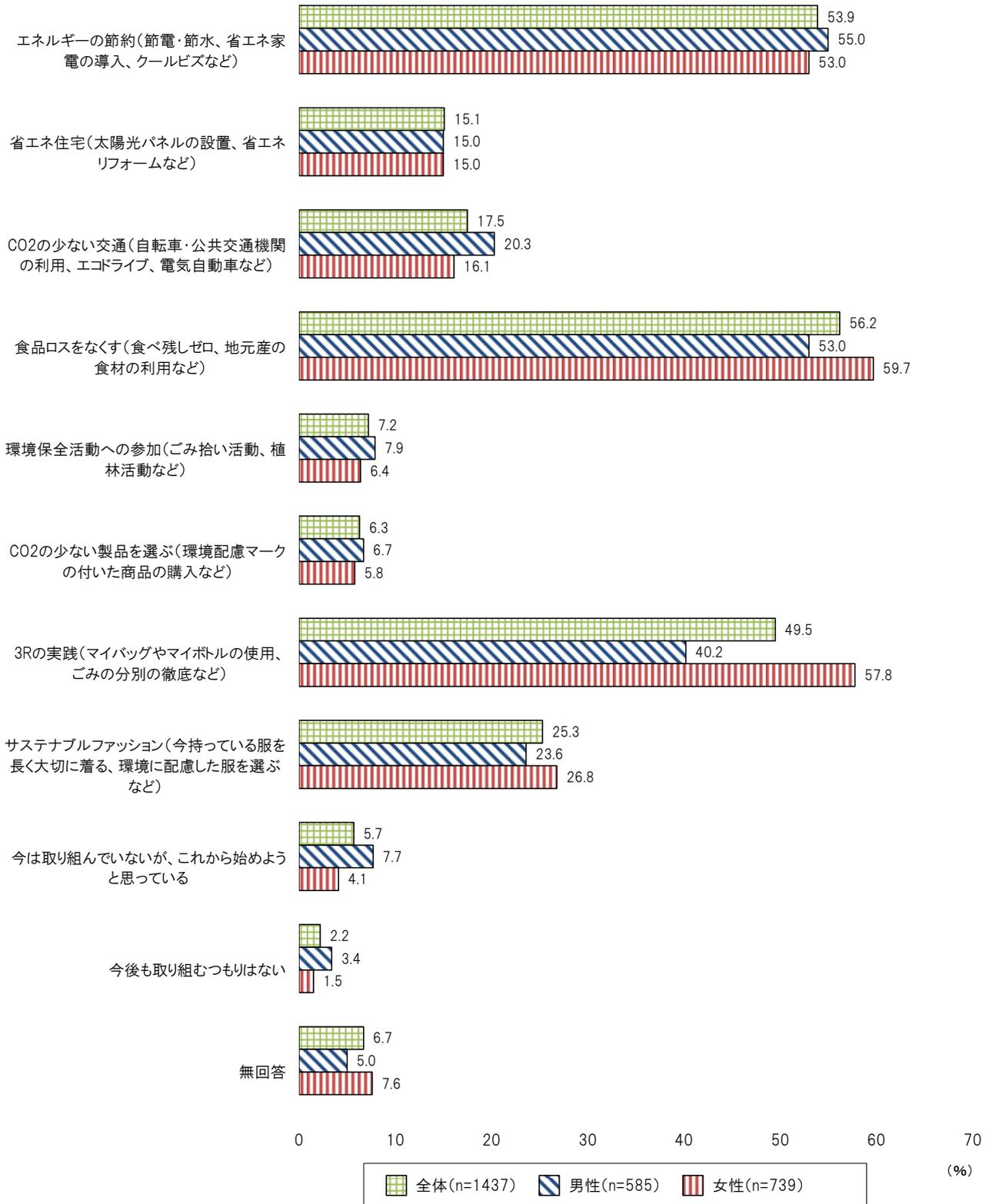
性別にみると、上位 3 番目に入ってくる項目は「食品ロスをなくす」「エネルギーの節約」「3R の実践」で同じであったが、1 番目は男性では「エネルギーの節約」、女性では「食品ロスをなくす」となっている。男女の間で差が大きかった項目は、「CO₂の少ない交通」で 4.2 ポイント、「エネルギーの節約」で 2.0 ポイント男性の方が高く、一方で、「3R の実践」で 17.6 ポイント、「食品ロスをなくす」で 6.7 ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、3 番目以内に入っている項目はいずれの年代でも「食品ロスをなくす」「エネルギーの節約」「3R の実践」であった。1 番目の項目は、10 歳代、20 歳代では「エネルギーの節約」、30 歳代、40 歳代、50 歳代、70 歳以上では「食品ロスをなくす」、60 歳代では「3R の実践」となっている。

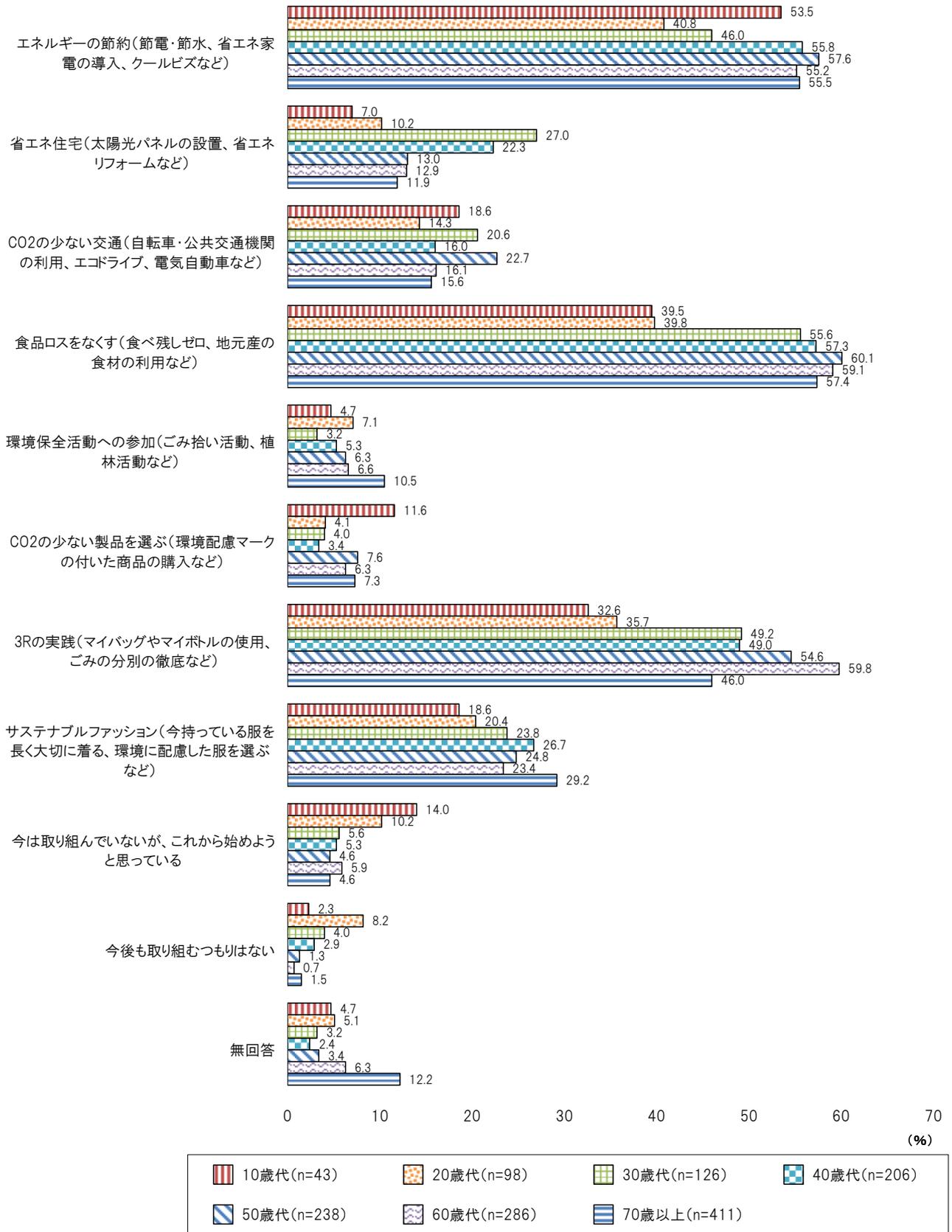
<年代ごとの上位 3 項目>

	1 番目		2 番目		3 番目	
10 歳代	エネルギーの節約 (節電・節水、省エネ家電の導入、クールビズなど)	53.5%	食品ロスをなくす (食べ残しゼロ、地元産の食材の利用など)	39.5%	3R の実践 (マイバッグやマイボトルの使用、ごみの分別の徹底など)	32.6%
20 歳代	エネルギーの節約	40.8%	食品ロスをなくす	39.8%	3R の実践	35.7%
30 歳代	食品ロスをなくす	55.6%	3R の実践	49.2%	エネルギーの節約	46.0%
40 歳代	食品ロスをなくす	57.3%	エネルギーの節約	55.8%	3R の実践	49.0%
50 歳代	食品ロスをなくす	60.1%	エネルギーの節約	57.6%	3R の実践	54.6%
60 歳代	3R の実践	59.8%	食品ロスをなくす	59.1%	エネルギーの節約	55.2%
70 歳以上	食品ロスをなくす	57.4%	エネルギーの節約	55.5%	3R の実践	46.0%

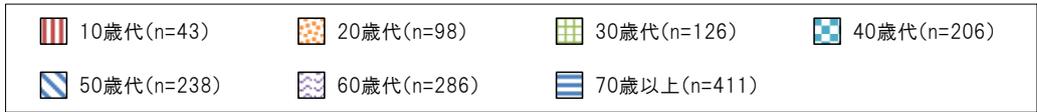
問24 カーボンニュートラルにすでに取り組んでいること



問24 カーボンニュートラルにすでに取り組んでいること



(%)



問 25 カーボンニュートラルの実現に向けて、一人ひとりが自分のこととして取り組むために必要な情報は何かと思いますか。（〇は2つまで）

全体では「省エネの実践方法」が47.5%で最も高く、ついで「食品ロスゼロの実践方法」が38.0%、「3Rの実践方法」が29.7%となっている。

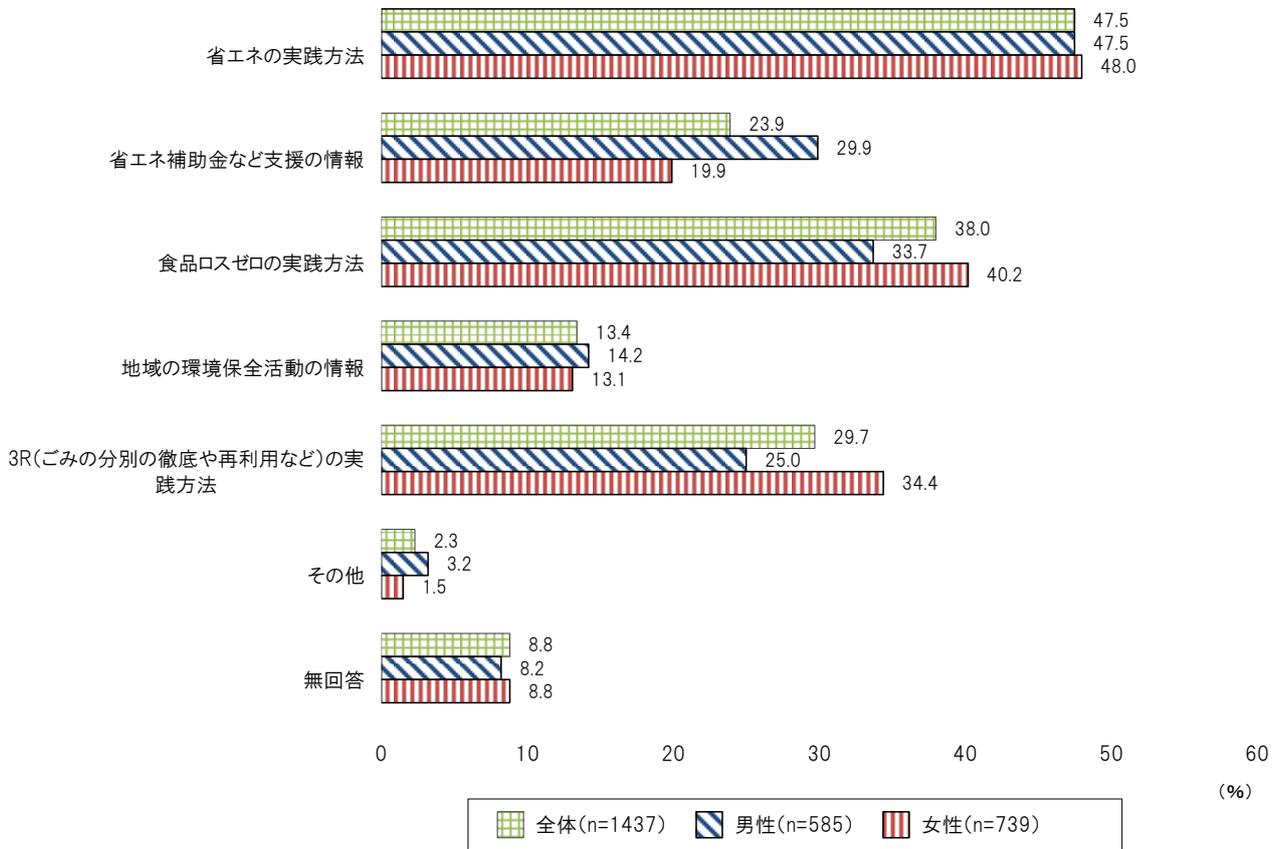
性別にみると、1番目、2番目に高い項目は「省エネの実践方法」「食品ロスゼロの実践方法」で同じであった。3番目に高い項目は、男性では「省エネ補助金など支援の情報」、女性では「3Rの実践方法」となっている。男女の間で差が大きかった項目は、「省エネ補助金など支援の情報」で10.0ポイント男性の方が高く、一方で、「3Rの実践方法」で9.4ポイント、「食品ロスゼロの実践方法」で6.5ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「省エネの実践方法」は2番目以内に、「食品ロスゼロの実践方法」は3番目以内に入っている。

<年代ごとの上位3項目>

	1 番目		2 番目		3 番目	
10 歳代	省エネの実践方法	51.2%	食品ロスゼロの実践方法	34.9%		
			3R（ごみの分別の徹底や再利用など）の実践方法	34.9%		
20 歳代	省エネの実践方法	53.1%	省エネ補助金など支援の情報	31.6%	食品ロスゼロの実践方法	29.6%
30 歳代	省エネの実践方法	53.2%	食品ロスゼロの実践方法	34.1%	省エネ補助金など支援の情報	32.5%
40 歳代	省エネの実践方法	43.7%	食品ロスゼロの実践方法	39.8%	省エネ補助金など支援の情報	31.6%
50 歳代	省エネの実践方法	48.3%	食品ロスゼロの実践方法	40.8%	省エネ補助金など支援の情報	27.3%
60 歳代	省エネの実践方法	54.2%	3Rの実践方法	34.3%	食品ロスゼロの実践方法	32.2%
70 歳以上	食品ロスゼロの実践方法	42.3%	省エネの実践方法	41.1%	3Rの実践方法	32.6%

問25 カーボンニュートラルの実現に向けて必要な情報



問25 カーボンニュートラルの実現に向けて必要な情報

